



平成27年4月 発行
社会福祉法人 迦陵園
(児童養護施設)

〒606-0802
京都市左京区下鴨宮崎町109
TEL (075)701-0250
発行人 松浦弘和
編集 迦陵園編集部

迦陵園だより



迦陵園 基本方針

— 養育目標 —

- ◎ 子どもの命と人権を守る。
- 人間性豊かな子を育てる。
- 心身共にたくましい子を育てる。
- 健全な社会人として生きていけるような子を育てる。

嬉しい春です

施設長 松浦 弘和



木蓮が咲き、雪柳が咲き、桜が咲き、八重桜も満開になりました。園庭ではチューリップが見事に咲いています。この美しい季節の中、皆様はどのような春をお迎えでしょうか。迦陵園の子どもたちは、進学、進級、就職と新しい一步を踏み出しました。卒園する子どもたちとの別れは淋しいものの、子どもたちが成長し新しい世界に出ていくことは嬉しいことでもあります。新しい幼稚園、学校に入学する子どもたちの姿を見られることは大きな喜びです。このような春を迎えることができたのも、ご支援くださる皆様のおかげだと感謝しております。

この春は、もう一つ嬉しいことがありました。4月1日、迦陵園の念願だった地域小規模施設「こがもの家」を開所することができました。「こがもの家」は迦陵園から徒歩5分、下鴨の閑静な住宅街にあります。ここで子どもたちは職員と普通の家庭生活に近い形で生活し、自立に向けての準備をします。

現在、中学1年生から18歳までの5名の男の子が生活を始めました。みんなが集えるゆったりとしたリビング、自分の空間が確保できる各自の部屋など素晴らしい家での生活で、子どもたちはとても喜んでいきます。「迦陵園入園後初めて落ち着いた」といった子どももいました。どの子もよい表情で生活している姿を見ると、「こがもの家」を開所できてよかったと改めて思いました。家庭での生活というもの知らない子もいます。その子たちが家庭というものを少しでも知ることができれば、これからの人生に大きな力となると思います。5名の子どもたちが兄弟のように助け合いながら成長し、自信を持って社会に出ていけることを願っています。

「こがもの家」のために設計されたようなこの家は、迦陵園の評議員の「焼肉の南山」社長、楠本貞愛さんの家をお借りしたものです。このように迦陵園にも近く広さも間取りも何もかも理想通りの家をお借りできたのは、奇跡のように思います。下鴨の地でご近所の皆さんに見守られて子どもたちが安心して暮らせるのは、楠本さんや地元の方々のご支援の賜物です。ありがとうございます。

引き続き迦陵園で生活している子どもたちも、新しい学校、新しい学年でがんばっています。4名の新しい職員も仲間になりました。これからの1年、子どもたちが幸せで楽しく生活し、たくましく育っていくよう、職員もがんばります。これからもご支援をよろしくお願いいたします。



新規採用職員 挨拶

児童指導員 平松 萌子



4 月から児童指導員として勤めさせていただくことになりました、平松萌子と申します。

これから迦陵園の一員として、みんなで楽しく過ごしていくことができるように、日々精進いたします。

年齢は重ねておりますが、大変未熟者ですので、皆様にご迷惑を多々おかけすると思いますが、頑張りますので、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

保育士 吉川あか音

4 月から保育士として勤めさせていただきます、吉川あか音と申します。

私は学生時代、実習で児童養護施設を担当させていただいた際に、今まで知らない職業ですごく興味がありました。

わずか 10 日間でしたが、私自身すごくやりがいを感じ、もっと知りたいと思い、何度かボランティアにも参加させていただきました。

幅広く幼児教育について学んできたので、学んだ経験が無駄にせず発揮できるように、子どもたちと日々成長していきたいです。

未熟ではありますが、ご指導のほどどうぞよろしくお願いいたします。



児童指導員 阿部 天



4 月より児童指導員として勤務することとなりました、阿部天と申します。児童福祉の分野で子どもたちと関わることは初めてですが、一つ屋根の下にも過ごす中で一緒に成長していけたらと思っております。

また、社会福祉士として地域の皆様との繋がりを大切に、日々研鑽を積む所存でございます。未熟な点も多くご迷惑をおかけするかと存じますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

退職にあたって

栄養士 吉岡 里子

食事を通じて、子どもたちの成長と共に私自身も成長させていただいた 35 年間でした。

その間、ご支援をいただきました後援会の皆様、同友会の皆様、そして大勢の皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。

長い間、ありがとうございました。

こがもの家



平成27年3月26日より、男子5名の「こがもの家」での生活がスタートしました。

地域小規模児童養護施設とは、既存の住宅等を利用して、より一般家庭に近い形で子どもたちが生活する施設です。

大舎制の施設とは規模が大きく異なり、定員は6名。少人数で暮らすことのメリットはたくさんありますが、まず一つは時間に追われることなく、自分で生活リズムを作りやすくなるという事です。また、それは一方で自分自身を律する責任も伴うことであり、自立を目指した意識付けにもなり得るでしょう。さらに大人が目も行き届きやすく、一人一人のニーズに合わせた個別的な対応も充実させることができます。

食事に関しても、今までのように広い食堂で時間になれば食事が並べられているのではなく、キッチンから聞こえる野菜を刻む音やお味噌汁の香りなど、五感で食を感じることができます。また子ども自身が調理に携わることも容易になり、食への興味や感謝、より高い満足感を得ることができるのではと感じています。



そしてこの小規模施設が「地域」の中で展開されることには、とても大切な意味があります。近隣の方との関係づくりから多くのことを学ぶのはもちろん、地域の方々に児童養護施設への理解を深めてもらうことで、施設が地域に支えられ育つだけではなく、社会福祉に携わることで地域の方々も育つ機会となり得るのではないのでしょうか。さらに、養護施設だけで育つのではなく地域の子として育ち、子どもたちにとって「地域」が、帰ってくる場所 = 「故郷」になるように、との思いも込められています。

このような希望を持って、地域小規模施設の構想を練っていたところ、「やきにく南山」の楠本さんのお力添えで、本園近くの素敵な一軒家をお借りすることができ、今年度から「こがもの家」として始めることができました。特に施設生活の長かった子どもは新しい生活に胸を躍らせています。

職員にとっても初めてのことばかりで、ご迷惑をおかけする事も多々あるかと思いますが、温かい家になるよう努めて参ります。本年度も迦陵園・こがもの家共々、よろしくお願い致します。



下鴨という地域をベースに生き生きと生きるための「下鴨ベース・生活塾」

下鴨ベース生活塾 塾長 楠本 貞愛

自立っていったいなんでしょう。

動物たちの当たり前の子育てのように、人間の子どもも、かつては自然に家事や育児、仕事という生活技術を身につけて一人前になっていったのでしょうか、いまや子育ては本当に難しいものになり、大人たちを非常に悩ませているのではないのでしょうか。

私自身にとっても、「子どもたちが生き生きと生きて、社会で必要とされる役割を担い、自立してくれること」は、切実な永遠のテーマです。たぶん正解などはなく、一人ひとりが自分自身の自立も含めて、現在進行形で悩んでいる事なのかもしれません。

さて、18歳で自立を迫られる迦陵園の子どもたちが、社会に出て必要となる技量や知識を身につけられるところ、社会に出てもふらりと帰ってこられる場所、一人ひとりが自分自身をパワーアップできるところ、そんな場づくりが出来ないものかと試行錯誤し、今回「こがもの家」の1階を利用して、下鴨ベース・生活塾という活動がスタートしました。

もともとは、京都府から依頼を受けて組み立てた「居場所事業」案がベースにあるのですが、公の制約にあわせるより、目の前の子どもたちの必要に合わせようという事で、まったくの任意活動として活動がスタートしました。

その一翼を担ってくださるのは、長年、子どもたちの教育に携わってこられた平嶋好美さん。彼女は、持続可能な開発のための教育・ユネスコスクール(ESD: Education for Sustainable Development)に認定された「箕面子どもの森学園小学校」の立ち上げから、若い指導者のサポートをしておられる方で、彼女の子どもの導き方を学ばせていただけることが、私はうれしくてなりません。

下鴨ベース生活塾は、誰かが何かを教えてくれる場ではなく、子どもたちの提案から組み立てて、子どもたちのペースで子どもの力を引き出していく活動です。これまで、料理づくりや、ベンチづくり、カーテンづくり、こがもの家の看板づくり、などに取り組んできましたが、どうやら、「子どもの無限の力を引き出す楽しさに、はまる大人を増やす」活動のようにも見えてきました。



「一緒に何かを創るプロジェクト」と、一人ひとりの個別のニーズに対応するプロジェクトの二本立てで、ご近所さんも巻き込んで広がっていけばと企んでいます。この活動を通して、子どもも大人も、「出来るようになった事」がたくさん増える楽しさを味わえればと思っています。

当面は、毎月2回ほどのペースで試行していきます。どうぞよろしくお願い致します。

卒業、卒園お祝い会

主任児童指導員 松本 悟史

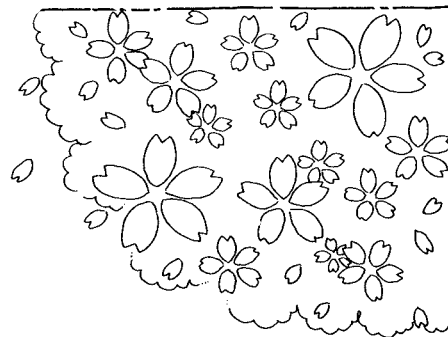
3月21日、今年も日頃からお世話になっているわかさ生活の方々や同友会の方々等が駆けつけてくださる中、平成26年度卒業・卒園お祝い会を盛大に行うことができました。

今年は、卒園児童の数自体は昨年よりも少なかったのですが、昨年以上の感動に包まれる場面や、後輩児童からのサプライズ演出で場をなごませてくれたりということもあり、お祝い会の雰囲気が年々よくなっていっている印象を受けました。

私自身この卒業、卒園お祝い会というのは、園の変化を象徴している行事だと考えています。今回の会でこれだけ人の温かさ、団結力などいろんな大切なことを感じられたというのは、子どもたち、そして周りの大人がとてもしの意味で変わっていくことができているということのあらわれだと感じましたし、また卒園する児童たちにとって、迦陵园が本当に大切な居場所になってきたということを改めて感じる事ができたことが何よりよかったことだと思います。

今年このような会が開けたのも、色んなことの積み上げを大切にしてきたからこそだと思います。

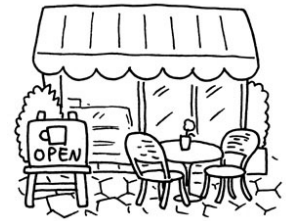
また来年度も今年以上の素晴らしい会を開けるように、みんなでまた力を合わせて、さらによりよい園作りを目指して一步一步歩んで行けたらと思います。



春の企業体験実習

指導員 澤 亮太

春休みの期間を利用して、今年も同友会さんの会社へ実習・見学・体験へ子どもたちは行ってきました。今回の参加児童は見学・体験を含めると 8 名と、多くの子どもたちが参加することができ、自分の興味を持った職業や知ってみたい事に触れる良い機会となりました。参加した児童の中には、子ども同士の中で話題になり「行ってみたい」と思って今回、実習に参加した児童もおりとても嬉しく思っています。実習自体が良い経験になるのはもちろんですが、その場で触れ合う人との関わりが一番大切なのではないかと思います。子どもは大人以上に大人の事を見ています。実習を通して、そこで働いている人々とのコミュニケーションが子どもを大きく成長させる一つの要因なのだと思います。いろんなことを体験し、やりたいと思える夢の幅をどんどん広げていってほしいものです。



〈招待行事〉 たくさんのご招待、ありがとうございました!

- 1月 6日 ゲームセンター招待
〈太鼓の達人楽しかったです!〉
- 11日 ドラゴンゲート プロレス招待
- 12日 ピアノコンサート招待
〈私もピアノが弾けるようになり
たいと思いました。〉
- 2月 8日 視覚障がい者マラソン
〈良い経験になりました。〉
- 8日 南山 料理教室
〈簡単なハンバーグの作り方を教わり、
また作ってみようと思いました!〉
- 21日 ドラゴンゲート プロレス招待
〈めっちゃ興奮しました!〉
- 23日 木下大サーカス招待
〈ホワイトライオンかっこよかった!〉
- 3月 9日 高3生 メイク・エステ体験
〈綺麗にしてもらえて嬉しかったです。〉



ゲームセンター招待



視覚障がい者マラソン



南山 料理教室

ホームページを開設しました!

<http://www.karyouen.or.jp/>

ぜひご覧ください!

児童養護施設におけるセラピストの仕事の実際 第 5 回

～気持ちを考えるということ③～

心理療法士 横山 隆行

自分が体験している世界が本当に真実の世界なののでしょうか。このように問うと、まるで哲学の問いのように思われる方もおられると思いますが、今からするのはもちろん心理学のお話です。

私達は生活の中で様々な体験をするとき、こころというフィルターを通して知覚します。こころというフィルターは人によって違うので物事のとらえ方は人によって変わってきます。

私がセラピーをしていた A 子は、自分が誰からも愛されていないのではないかと語り、学校や施設の中でも嫌われないように自分を演じていて、演じている自分と本当の自分との違いに苦しんでいました。私には彼女が年齢の割にはしっかりしていて礼儀正しく、嫌われる要素などないように感じられましたし、実際に彼女を慕っている子どももいました。つまり、他の人から見た実際の彼女と、彼女自身のとらえ方は大きな違いがあったのです。このような場合、彼女に「あなたは嫌われるような子じゃないよ」と伝えたとしても彼女の助けにはならないでしょう。なぜなら、彼女のこころの中では「自分は愛されない」ということが彼女の心の現実であり、どうしてもそう思ってしまうからです。

このように、客観的な事実と私達が体験している事実とは大きくかけ離れていることがあります。どうしてこのようなことが起こるのかといえば、それは私達のこころには自分では制御できない無意識的なこころの動きがあり、その自動的で無意識的な動きに支配されている部分があるからです。このようなこころの動きを精神分析の世界では内的対象関係と呼んだり、発達心理学の世界では内的ワーキング・モデルと呼んだりします。子ども時代に不適切な関わりが多かった場合、内的対象関係は事実を歪んでとらえてしまう不健康なものになりがちです。

では、A 子がこのような内的対象関係を変えるためにはどのようにすればよいのでしょうか。実際に人から愛される体験をすれば変わるのではないかと思われるかもしれませんが、それだけでは十分ではありませんし、人から愛情を向けてもらっていても彼女がそう感じられなければ意味がありません。彼女には人との肯定的な関わりを体験しながら、自分が苦しんでいる気持ちについて自分で考えていく必要があります。自分の気持ちについて考える最も効果的な方法の一つがサイコ・セラピー（心理療法）です。

精神分析的なセラピーでは、そのように感じる彼女の気持ちを表現してもらうような状況を作ります。時間や曜日を固定してセラピー場面以外では会わないようにし、セラピストは自分の意見を言わず、相手に自由に話をしてもらいます。すると、セラピーを受けている子ども達はセラピストとの関係性を彼らの内的対象関係を通して体験していきます。A 子も自分は私から好かれていないと感じ始めているように見え、私の結婚指輪を見つめることが増えました。そして、セラピストは彼女がセラピストから好かれたい、愛される価値がないと感じているということを言語化して、内的対象関係を浮かび上がらせていきます。ただ、どのような言語化を行うのかは子どもの状況によって慎重に使い分けます。そして、毎週、毎週、セラピストに能動的に話を聞いてもらっているという客観的事実と自分の心的現実が違うのだという体験を何度も繰り返して経験していくことを通してこころは変化していくのです。つまり、セラピーとは養育者との間で形成された内的対象関係をセラピストとの関係性を通して修繕していく試みなのです。セラピーが進展していくと、自分が体験した事実が自分のこころに歪められることが少なくなって真実に近いものになり、必要以上に苦しむことがなくなっていきます。A 子が最終的にどうなったのか…それはまた別の機会にお話しましょう。

編集者からの
ひとこと

地域小規模も始まり、今年度はいつも以上に慌ただしいスタートとなりました。そんな忙しい中でも私たちに原動力を与えてくれるのは子どもたちであり、この子たちのために住みよい園づくりをすることが私たちの仕事です。このことを忘れず、今年も一年共に成長しながら歩んでいけたらと思います。何卒よろしくお願い致します。

編集委員 竹内 萌